

〈研究報告〉

医療の倫理学

京都市生命倫理研究会

当研究会は、生命倫理に関心のあるものが集まり、倫理学研究室を中心として91年の秋ごろから開かれてきた会である。本研究室の者だけでなく、経済学部・法学部・医学部などからのメンバーも加え、隔週一回会合を開き、脳死・臓器移植問題といったオーソドックスなテーマから、末期医療、エイズ、人ゲノムプロジェクト、動物実験、IQテストと(メンバーの関心のおもむくままに)多岐にわたるテーマを扱っている。

この3年間、対外的な発表の場は設けてこなかったが、このたび実践哲学研究会からの依頼により当論集に研究の報告をまとめることになった。作成の過程は以下のとおりである。まず、研究会でも何度も扱った重要なテーマから題材を選び、執筆担当を決め、第一稿を作った。それをもとに、一度倫理学研究室の他の皆さんと一緒に合宿という形で討論会を行ない、練り直しを行なった。そうしてさらに生命倫理研究会内部での討論などを経て、最終的には当初の執筆担当者の責任で作成したのがここに掲載したものである。したがって、論文の文責は各執筆担当者にあるが、その成立には研究会のほかのメンバーをはじめとした多くの方々の援助が不可欠であった。とりわけ、研究会のメンバーで医師でもある中村嘉孝氏および鶴山龍昭氏からは、医学知識や医療の現場の状況について、貴重な示唆を多くいただいた。また、合宿に際しては加藤尚武先生にもお忙しい中お越しいただき、多くのご助言をいただいた。改めてここに謝意を表すとともに、この報告集がそうした厚意に恥じない内容になっていることを切に望む次第である。



1. パターナリズムとインフォームド・コンセント.....奥野 満里子
2. 脳死臨調答申から「臓器移植法案」へ.....伊勢田 哲治
3. 安楽死問題.....江口 聡
4. 医療資源の配分の倫理.....土屋 有紀